

校長室より

「天空高き」



第113号



平成30年10月3日

第10回楽学祭～Human Bloom 平成最後の花を咲かそう～

節目となる第10回楽学祭が終わりました。皆さんの脳裏にはどんな場面が刻み込まれていますか。

楽学祭実行委員長の赤川生徒会長は、「楽学祭を通して一人ひとりが未だ踏み込んだことのない門、新たな自分を見出して欲しい」と述べていました。

未だ踏み込んだことのない門、新たな自分を見出すためには、己の足で歩むしかありません。心に光を灯し、前に進むしかありません。

皆さんは、チャレンジしていく中で、自分のできること、できないことを認識し、等身大の自信を持つことが大切です。その上で、自分の良さを大切に伸ばしていくと、他者の良さや辛さ、苦しみが分かるようになります。そうした人間性がAIを使いこなし、他者と協力していく力の基礎となると思います。それが、Human Bloomです。



朝読書—読書は人生を変え、生き抜く力を与えてくれる師である—

8時20分になると、校舎内に静寂が訪れます。どの教室にも、生徒はいるはずなのに、静かです。日曜日の早朝に学校に来る時がありますが、生徒がいない時の静寂感とは全くの別物です。

この何とも言えない静けさが私にとっては、朝の素晴らしいひと時です。

本校の朝読書は、平成20年から始まりました。朝読書の原則は、①毎日読む ②皆で読む ③好きな本でよい ④ただ読むだけ の4つです。

ただ、「好きな本でよい」と言っても、雑誌、漫画や参考書という訳にはいきません。生徒の皆さんが気を付けることは、読みやすい本を選ぶことです。どんな本を選んだらよいのか迷っている人がいたら、授業で習っている国語の先生に相談するのが一番



です。

読書することで、新しい知識が得られ、語彙力が豊かになり、表現力・思考力や想像力が向上するほかに、集中力が増し、しかも朝読書は、授業や生活全般に良い影響を与えることが報告されています。まさに、その通りだと思います。

私も今まで読書することで、たくさんのことを学びました。悩んだり迷っているときに、私を助けてくれました。本は私にとって先生であり、師です。本が素晴らしいのは、いつでも、どこでも、誰でも、手に取って読むことができることです。

一冊の本は、私たちに感動と勇気と元気を届けてくれます。そして、人生を生き抜く力を与えてくれます。

Society 5.0—サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を融合—

Society 5.0 とは、狩猟社会 (Society 1.0) 農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すものです。内閣府が提唱しています。

内閣府によれば、Society 5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、少子高齢化や地方の過疎化などの課題や困難を克服しようとしています。

また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題を克服しようとしています。

社会の変革 (イノベーション) を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会を目指しています。

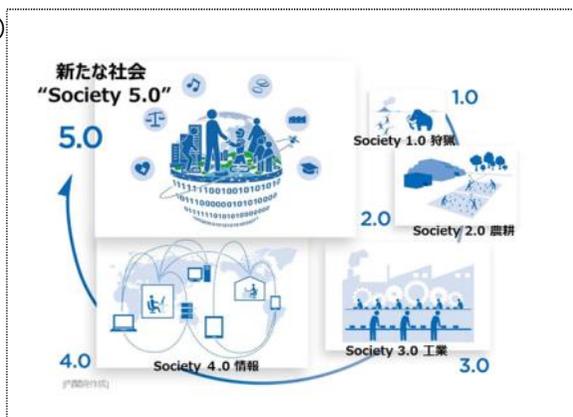
第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

社会が変われば働き方も変わります。働き方が変われば求められる能力も変わってきます。求められる能力が変われば当然教育も変わります。学び方も変わります。特に、科学技術が急速に進歩し、AI 等と共存し使いこなしていくためには、「人間の強み」を発揮することが重要です。

具体的には「文章や情報を正確に読み解き対話する力」、「科学的に思考・吟味し活用する力」や「価値を見つけ生み出す感性、好奇心・探究力」が大事です。

これからの学校では、個人の進捗や能力等に応じた学びの場が展開されるようになったり、今まで同年齢・同学年での学習の場から、異年齢・異学年集団での協働学習へと拡大していきます。

これからの社会では、皆さんひとり一人が自らの将来の姿を考え、その姿を実現するために必要な能力をどのように身に付けていくのかが求められています。



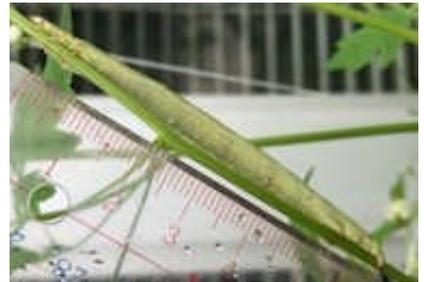
コーヒーブレイクー擬態ー

校長室前のフウセンカズラのグリーンカーテンです。少しわかりづらいかもしれませんが、幼虫がいるのがわかりますか？

2日前に発見しましたが、その時から、わずか数十cm移動しただけです。体長は約6cmでした。

同定してみましたが、多分、ヨモギエダシャクの幼虫で、皆さんにはシャクトリムシ（尺取虫）と言った方がなじみ深いと思います。

幼虫の体色は緑色から暗褐色まで変異に富み、胸前体部背面に一对の小突起があります。きわめて多食性で、さまざまな植物の葉や芽を食べ、害虫として扱われます。生活型は卵→幼虫→さなぎ→成虫の完全変態です。



日々の暮らしの中にあるものー感性ー

今年の記録的な猛暑も、すっかり忘れてしまうような、心地のいい季節を迎えました。

空気が澄み切って空高く晴れ渡り、爽やかな風が吹き抜け、まさに、スポーツの、読書の秋です。また、豊かな自然の恵みも授かり、食も進みます。

私たちは日本の四季に感謝しなければなりません。私たちは、この日本独特の美しい四季のあるおかげで、日々の暮らしの中で独自のものの考え方や感じ方を育んできました。

私たちは、四季の移り変わりの中で、清々しい気持ちになり、心に余裕が生まれました。四季の美しさを謳った詩歌の丁寧で美しい言葉を聞けば、心地よく、相手に敬意を抱きます。季節の旬のものを温かく美味しい手料理で食べると、作ってくれた人への情愛が芽生え、心も体も元気になるものです。さらに、優しくぬくもりのある手に包まれると、張り詰めていた気持ちが緩み、心の中に明かりが灯ります。このように、五感から得られる「感覚」や、第六感も含めた「情感」が、心が感じる力、すなわち「感性」なのです。

それらを多く得ることが、喜怒哀楽の感情や、人の気持ちに寄り添う「思いやり」「優しさ」を育みます。人がAIより優位でいられるのは、このように人にしかない心の機微がわかることであり、それこそが人としての存在価値（アイデンティティ）に他ならないはずです。その根もととは、私たちの日々の暮らしの中にあるのです。



選挙に行こう！—市民生活に直結した一票を—

岩国市議会選挙の投票日は10月14日です。現在、本校の3年生の中で、85名の生徒が選挙権を有しています。是非岩国市民の一人として、自分で考え判断して、清き一票を投じてください。皆さんの一票で皆さん自身の生活を変えることができます。



三権分立という言葉をよく耳にしたと思います。三権分立の「三権」とは、立法・行政・司法です。

1つ目の立法とは、「法律を作る」機能です。日本であれば、国会が唯一の国としての立法機関にあたります。

2つ目の行政とは、「国として、国民に対するサービス」を行う機能です。日本は、内閣が行政機関になります。この内閣は基本的に15名の大臣とそのリーダーである内閣総理大臣です。

そして3つ目の司法とは、「ルールに基づいて裁く」機能です。裁判所が行います。

まとめると、国会が「立法」した法律を「行政」が実行して「司法」がチェックする仕組みになっています。

ところで、2つ目の行政には、大きく分けると「政府」と「地方公共団体」の2つがあります。「政府」は「国の仕事」を担当し、「地方公共団体」は「地方の仕事」を担当しています。「県庁」や「市役所」、「役場」は、地方公共団体の人たちが働く場所です。

さて、本題に入りますが、市議会議員(市議)の役割は、市民の声を市政(行政)に反映させることです。具体的には、市議は、議会で市長や他の市議が提出した議案の審議や議決を行ったり、ときには自らが議案を提出したりして、市政が正しく行われているかをチェックし、疑問点や問題点などがあれば厳しく追及したりします。

皆さんが日常生活の中で困っていることや改善してもらいたいことを、市議に伝えるために市議会選挙があるのです。皆で選挙に行きましょう。

24節気

寒露 (かんろ) 10/8 頃 陰寒の気に合って、露むすび凝らんとすれば也(暦便覧)
冷たい露の結ぶ頃。秋もいよいよ本番。菊の花が咲き始め、山の木々の葉は紅葉の準備に入る。稲刈りもそろそろ終わる時期である。

霜降 (そうこう) 10/23 頃 つゆが陰気に結ばれて、霜となりて降るゆへ也(暦便覧)
北国や山間部では、霜が降りて朝には草木が白く化粧をする頃。野の花の数は減り始める、代わって山を紅葉が飾る頃である。
出典「こよみのページ」